



多治見市陶磁器意匠研究所

Ishoken

Navigator //



モザイクタイル Mosaic tile の散歩道

Vol.7

多治見市陶磁器意匠研究所（美坂町）

美濃焼タイルとまちの素敵な出会い。

戦後、上絵付加工の不振と人材不足に対応すべく設立された美濃焼上絵付研究所は、後に多治見市に移管されて多治見市陶磁器意匠研究所（通称、意匠研）となります。現在地に新築移転したのは昭和41年のことでした。

新築に際しては、意匠研オリジナルを創ろうという発想で、釉薬とともにタイルが開発されたそうです。外装タイルは業者が製造したのですが、玄関のトルコブルーの装飾壁面や、トイレの深い辰砂（しんさ）のタイルは意匠研で作ったとか。特に前者の釉薬は、その後市内の別の施設でも活用されました。一方、現副所長室壁面のタイルは、なんとウイスキーの瓶を壊して作ったガラスのタイル。

外装は、近年の一部に関する打音検査で「浮き」がないと感心されたとか。当時のタイルに対する意識の高さと、施工技術の確かさを感じる作例です。

モザイクタイルミュージアム

学芸員 村山 閑（むらやま かん）

※本連載では、市内に点在する美濃焼タイルを使った建造物を紹介します